



東北農政局 和賀中央農業水利事業所
豊沢川農業水利事業建設所長 木村 俊逸

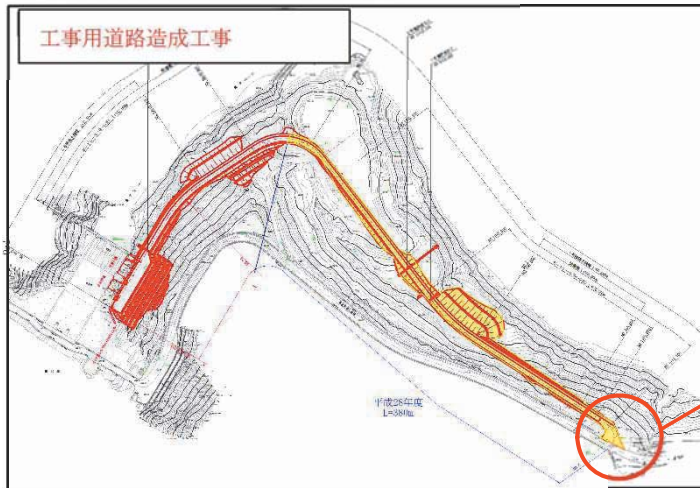
ご挨拶

平賀理事長をはじめ、豊沢川土地改良区組合員の皆様には、日頃より国営「豊沢川地区」の事業推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

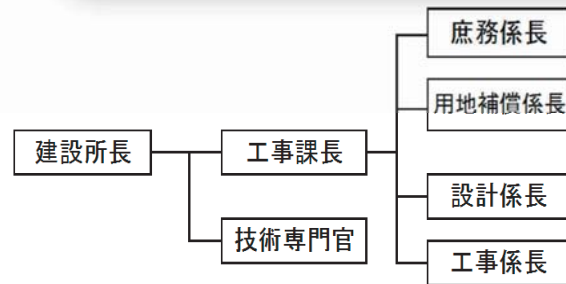
昨年8月に建設所が開設され3月で8ヶ月が経ち、この間事業については、主に改修工事に係る実施設計と河川協議及び国有保安林の解除協議等を中心に業務を進めてまいりました。また、10月には建設所開所式も挙行させていただき、関係者の皆様、大変ありがとうございました。平成28年度につきましては、県道花巻大曲線から豊沢ダム堤体下流に行くための工事用道路を造成する予定でございます。(7月頃から) また、これに先立ち、国有保安林及び土地改良区所有林の支障木の伐採工事を4月から6月頃までかけて実施します。これにより、いよいよ本地区の事業も本格化することとなります。

また、4月からは建設所の体制も1名増の7名体制になります。より一層の事業推進に取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年度事業計画



平成28年4月から体制が変わりました！！



今年度もよろしくお願ひします。



ごあいさつ



理事長
平賀 巖

組合員の皆様には平素より当土地改良区の業務運営全般に亘り格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、各行政機関並びに各農業団体各位には、各般に亘る土地改良事業の推進にご懇切なるご指導、ご配慮を賜り、衷心より感謝申し上げます。

昨年十一月に新たな役員体制が発足し、不肖私が理事長に就任いたしました。新体制のもと役員一丸となって、誠心誠意務めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、当土地改良区の平成二十七年度に計画されました各事業は、外台地区のほか整備事業等に遅れがありましたものの、皆様のご協力の下で、概ね計画どおり進めることができました。

殊にも、兼ねての懸案でありました豊沢ダムの改修につきましても、国営かんがい排水事業「豊沢川地区」が採択となりました。既に昨年十月に豊沢川農業水利事業建設所が開所され、事業の進捗が図られております。早期着手にご協力を賜りました関係各位に対しまして深く敬意を表しますとともに、今後は、早期事業完了に向けて本事業の推進に積極的に協力して参ります。

所存であります。

いま食料・農業・農村を巡る情勢は、農地利用集積の進展に伴う大規模経営体の増加に加え、TPP交渉の大筋合意などにより、将来に対する不安や懸念が大きく、特にコメを巡る先行き不安から、状況は一段と厳しくなっております。一方で、農業水利施設の老朽化は進行しており、新規需用米への転換に支障を来たすばかりでなく、多発する集中豪雨による被害も危惧されております。農業の競争力強化や農村地域を強靱化するための各種施策の緊急かつ確実な実施が求められるところであります。

このような状況の中、政府は、「新たな食料・農業・農村基本計画」をスタートさせ、「強い農業」と「美しく活力ある農村の創出」を目指していく方針を打ち出し、また、「総合的なTPP関連政策大綱」が決定されました。地域農業が発展的に継続できる環境を整えていくためには、これら施策の目指す方向を見定め、機敏に対応していく必要があります。

これら施策にかかる国の予算は、平成二十七年年度補正予算案で九百九十億円、平成二十八年年度当初予算案では、二百三十二億円の増額となり、平成二十七年当初比で千二百二十二億円増の総額四千八百十億円の政府予算案となりました。しかし、要求してきた、平成二十八年度当初予算の一千億円増額には及ばず、今後一層「開う土地改良」を掲げ、組織を挙げた活動の展開が重要と存じます。

新たな農業施策が展開される今、まず、生産コストの最小化に必要な農地の大区画化と暗渠排水、そして用排水施設の補修・更新等を短期集中的に実施することが、喫緊の重要課題であります。

従来の傾向に加え、新規需用米の作付等によって、これまでより早い時期から又は遅い時期まで用水需要が大きくなっており、配水管理施設の更新、反復利用の強化、管理体制の見直し等について、検討していくことが不可欠であります。

現在、優良な農業経営をされている地域は、全て土地改良による基盤整備の上になり立っていることを、しっかりと説明・衆知していくことが、予算確保のために極めて大切であります。その上で地域の実情を反映した具体的かつ新たな対応を提案するとともに、県及び関係機関と一体となって国に強く要望して参りたいと存じます。

農業経営が大きく変貌していく中、土地改良区の健全・効率的な運営を図るためには、経費節減と経費を負担する組合員の理解と協力が重要であります。組合員のコスト意識が高まる中、土地改良区が自らの経営状況を客観的に分析し、公平・透明な運営、円滑な施設管理を実施するためには、コスト意識の醸成と、的確に費用を把握できる会計処理が必要と判断いたしました。複式簿記会計の平成二十九年度移行を目指すことにいたしました。

安全・安心な、食料の供給基盤である農地の整備と農地の動脈とも言えるべき農業水利施設の適切な維持管理は土地改良区に課せられたまさに基本的な使命であります。これに着実に果たすため、組合員はもとより、関係機関、各農業団体と密接な連携を図りながら、事務事業の推進に職員一同、一層の努力を傾注して参ります所存でありますので、よろしくご協力下さいますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、本年も無災害で安全な農作業をもって豊穡の年でありますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。